

新春スペシャル  
週刊現代が  
撮った女優たち



独占カラー 高岡早紀 撮り下ろし / 袋と私の陰唇線  
天皇陛下「安倍総理への不満」 / モイクロインタビュー 三浦友和

新春特大号  
第2弾!

# 週刊現代

あの自民党大物議員に落選の危機

2月解散 衆院選全選挙区 当落完全予測

10年後に「消える会社」「生き残る会社」  
全363社を公開「生き残る」1位は東レ、2位はヤマトHDとニマックス

松山英樹  
今年、世界を獲る



新春ビッグインタビュー

三井住友銀行 外されたのか  
「仰天トップ人事」全内幕  
清宮幸太郎 プロで通用するのか

初笑い特別企画  
あの「隣の県」  
だけは許せねえ  
群馬×茨城 埼玉×千葉 京都×大阪  
広島×岡山 鳥取×島根 大分×佐賀

特別定価450円  
1/14・21  
Weekly Gendai  
2017  
January  
100年生きるのには幸せか  
「オーバー100歳」が10年後には30万人に  
長寿はめでたいが支える家族はこんなに大変

新年号特別企画 「ロに出せない」ニッポンの悩み

2017女体満足のすすめ



いつまでもSEXを / 年代によって女性器の味がこんなに違う  
耳で楽しむSEXで大満足

独占撮り下ろし  
高岡早紀  
ゴージャスボディ

私たちの「陰唇線」  
新春大放出版 女優ヌード祭り  
関根恵子 西川峰子 由美かおる  
坂口良子 五月みどり 麻田奈美  
「陰唇線」  
見てください

欧米人とこんなに違う 「日本人の体質」  
だからその食事と健康法、間違ってます

# 100年生 ぎるのとは 幸せか



「オーバー100歳」が  
2020年に10万人を超え、  
2030年には30万人に

## 長寿はめでたいが支える家族はこんなに大変

- 自分の足で歩けるのは5人に一人
- 一人当たり年間300万円を
- カネが尽きた高齢者が集まる場所

- 8割の人が認知症に税金から捻出
- 死にたくても死ねない人たち

門松は冥途の旅の一里塚、めでたくも  
ありめでたくもなし——一休の歌で  
はないが、現在の日本は長生きを素直  
に寿げない奇妙な社会になった。人生  
100年が珍しくない時代の「幸福論」。

### 百歳の数は 町田市の 人口並みに

「今年101歳になる夫の叔母が、私の家から30分くらいのところに一人暮らしをしています。平日はデイサービスがあるので、土日はないので介護に行くことになる。ヘルパーさんも頼んでいますが、時間の制限があつて40分くらいしか滞在してくれません。これではろくに掃除もしてもらえない。夫も私も仕事があるので、介護疲れでもう限界です」

こう語るのは、東京都杉並区に住む嶋地晴子さん(仮名、58歳)。介護している叔母は子どもがお

らず、夫も15年前に亡くなった。3年ほど前から「様子がおかしい」という電話が近所の人からかかってくるようになり、嶋地さん夫婦が介護することになったという。

「アルツハイマーなので、食事したことを忘れてしまい、台所にあるものの全部食べ尽す。朝夕食や明朝の分にと思つて届けておいた弁当も一度に食べてしまうようで、ヘルパーさんが来ても「食べ物がありませんよ」と言われる。一度に食べ過ぎて下痢をしたり、嘔吐したりするので、大変です。もちろん自分で掃除できないので、衛生面でひどい状況になっていることもよくあります。叔母の家に行く前はいつも今日はなにか異常がないか不安でいっぱいになります。

昨年の夏には自分で洗濯をしようとして、途中で忘れて放置してしまい、洗ったものがカビだらけ。

高齢者のなかには、「自分たちは若い頃に一生懸命働いて高齢者を支えてきたのだから、これからも若者たちがしっかり働いてくれれば大丈夫」と信じている人もいます。だが、それは甘い。

現在、100歳の高齢者1人に対して、どれくらい医療費や介護費が支払われているのか。厚生労働省の「医療給付実態調査報告(13年)」によると、100歳以上の高齢者に対して年間支払われる医療費は117・8万円。さらに介護保険の受給者1人あたりの介護サービス費は1年で191・3万円(厚労省「介護給付

高齢者のなかには、「自分たちは若い頃に一生懸命働いて高齢者を支えてきたのだから、これからも若者たちがしっかり働いてくれれば大丈夫」と信じている人もいます。だが、それは甘い。

現在、100歳の高齢者1人に対して、どれくらい医療費や介護費が支払われているのか。厚生労働省の「医療給付実態調査報告(13年)」によると、100歳以上の高齢者に対して年間支払われる医療費は117・8万円。さらに介護保険の受給者1人あたりの介護サービス費は1年で191・3万円(厚労省「介護給付

## 「元気な100歳」は例外

という推計があります。530万人の10%は約50万人。

いよいよ社会として病人を選別しなければならぬ時代が到来するのです。「具合が悪いのかも

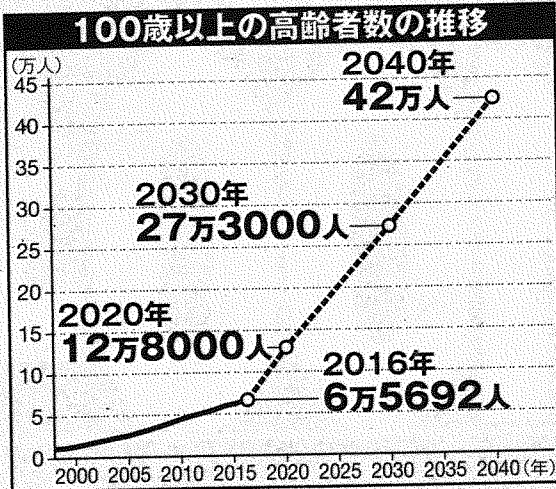
しれないけれど、自力で治してください」「もう治る見込みはないので、病院に来ないでください」と、病人を追い返さなければ日本社会が持たない時代になる」



嚥下能力が落ちると老いは加速する

「現在、日本の高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)は26・6%です。つまり4人に1人が高齢者ということ。これが50年代初頭には2・5人に1人が高齢者になると推計されています。しかも後期高齢者のウェイトが大きくなる。これからは60代の人た

「なかには90歳を過ぎても、100歳になっても芸術や政治活動を続ける人がいて、私もそれはすごいことだと思います。しかし、そのような突出した人たちは、あくまで例外なのです。加齢とともに、視力や



から、その杯は純銀ではなく、銀メッキに仕様が変更された。それもそのはず、現在、百寿者の人口が猛烈に増加しているのだ。人口問題に詳しい産経新聞論説委員の河合雅司氏が

## 病院窓口で追い返される

言うまでもなく、長寿それ自体はめでたいものだ。しかし、このような極端な高齢化は、いまだかつて人類が経験したことのない社会の到来を意味する。

「17年は、高齢化が新しいフェーズに入る象徴的な年になるでしょう。65歳から74歳の前期高齢者と75歳以上の後期高齢者の人口を比べると、16年まではまだ前者のほうが多いのですが、17年にその数が逆転すると予想されているのです。

常識的に考えれば、人は歳を取るにつれて寿命を迎える確率も高まる。ですから高齢者の人口自体は増えても、100歳以上の人々に代表される後期高齢者の数は減って

「100歳以上の人は言うまでもなく、75歳以上の高齢者は医療や介護を必要とし、その費用もかさんでいきます。後期高齢者層が猛烈な勢いで増えることで、現在の医療福祉制度は崩壊せざるを得ないでしょう。75歳以上の人口は、こ

化することが予想されている。42万人といえは、ほぼ東京都町田市の人口に匹敵する数だ。

いくのがこれまでの常識でした。そのような常識的な人口ピラミッドが崩れ始めるのが17年という年なのです(前出の河合氏)

15年10月1日時点の65歳から74歳までの人口は1752万人、75歳以上は1641万人。この人口構成が今年、逆転するというわけだ。政策研究大学院大学名誉教授の松谷明彦氏が語る。

「100歳以上の人は言うまでもなく、75歳以上の高齢者は医療や介護を必要とし、その費用もかさんでいきます。後期高齢者層が猛烈な勢いで増えることで、現在の医療福祉制度は崩壊せざるを得ないでしょう。75歳以上の人口は、こ

んや近所の人が見ていくるので、少しずつ訪問するのが間遠になっていきます。

しかし、離れているとそれはそれで心配なことが出てくる。とくにおカネの問題です。

あるとき、母の家に蟹やら牛肉、大量の野菜などが頻りに届くようになった。母に聞いても要領を得ないので、捨ててあった箱を調べたところ、北海道の業者から代引きで送られてきたことがわかった。そのたびに3万円も4万円も支払っていたようです。業者は、母が独居していることにつけ込んで、電話で注文を取って、勝手に送りつけていたのです。

他にも、掃除機の空き箱の中に隠してあったへそくりがごっそりなくなっていることがあった。200万円もあったでしょう。か。いまだに行方がわかりません」

山西さんのように自身も後期高齢者である場合、自分の生活で精一杯になり、親のことまで目が届かなくなるのはいたしかたないことだ。やはり、高齢者が高齢者を支えるのは経済的にも体力的にも限界があるだろう。

では、実際のところ、100歳の高齢者は、どのような健康状態にあるのだろうか。

最近では100歳を超えても絵を描いたり、歌を歌ったりする元気な高齢者がメディアに取り上げられ、羨望と尊敬の念を集めることが多いが、「そのような高齢者は例外である」と川崎幸クリニク院長の杉山孝博氏は語る。

「なかには90歳を過ぎても、100歳になっても芸術や政治活動を続ける人がいて、私もそれはすごいことだと思います。しかし、そのような突出した人たちは、あくまで例外なのです。加齢とともに、視力や

も後期高齢者である場合、自分の生活で精一杯になり、親のことまで目が届かなくなるのはいたしかたないことだ。やはり、高齢者が高齢者を支えるのは経済的にも体力的にも限界があるだろう。

# 1億5000万円必要

現在60代から70代の人たちは、現役時代に右肩上がりの経済成長を享受してきた世代だ。しかし前項で見たように、100年生きるものが珍しくもない超高齢化社会の到来で、経済の状況はガラリと変化することは確実。右肩下がり時代の向けて意識を転換しなければ大変なことになる。事実、すでに政府は年金支給額のカットや高齢者の医療費負担増といった

# 100年人生のズツとする「収支報告」

施策を打ち始めている。仮に100歳まで生きるとしたら、どれくらいのカネが必要なのか、試算してみる。ファイナンシャル・プランナーの深野康彦氏が解説する。「総務省の家計調査報告を基に計算してみよう。60〜69歳の生活費は夫婦二人で年間約330万円（10年で3300万円）。70〜74歳は年間約300万円（5年で1500万円）。そして、75歳

以降は平均272万円かかるので、100歳まで26年間生きた場合、7072万円（総計で1億1872万円）になります。こうした日常の生活費以外にも自宅のリフォーム代、医療・介護費、趣味や旅行に使うお金もあるので、2000万〜3000万円くらいはかかるかと考えておいたほうがいい」

合計すると、100歳まで安心して生きるためには約1億4000万〜1億5000万円という途方もない額のカネが必要になるわけだ。収入のほうはどうか？「平均的なサラリーマン世帯の年金収入は月額22万円、年間で264万円です。65歳から受給した場合、100歳までの年金収入は約9500万円。必要な額からおよそ5000万円が不足する計算になります」（深野氏）

現役時代の貯蓄や退職金などが豊富であればいいが、なかなかそうもいかないだろう。また、年金支給額は今後、減らされても増えることはありません。 「昨年の年金カット法では、現役世代の賃金が上がらない場合は年金も上がらないという仕組みが導入されましたが、その程度では年金制度は維持できません。すでに受給している世代の年金も、たとえば10%カットのよう大きな鉅額がふるわれる可能性がある」（深野氏）

# 5000万円足りません

聴力、知的機能が落ちてくることは避けられませんが、例えば、認知症。厚生労働省の研究班が出したデータによると、95歳以上の高齢者の79.5%は認知症です」

運動機能はどうだろう？ 100歳前後の超高齢者のうち何割が、自分の足で歩けるかというデータは存在しないが、ある程度推定することはできる。厚生労働省の「国民生活基礎調査（13年度）」によると、「日常生活に影響のある者の率（男性）」は70〜74歳で約20%、75〜79歳で26%、80〜84歳で35%、85歳以上で44%と増加している。仮にこのペースで増加していけば、100歳の段階では約8割の人が外出や日常生活に支障のある健康状態だろうと推定される。

また、嚥下する力が弱くなって、自分の力で食べるできない超高齢者も多い。要町ホーム

ケアクリニック院長の吉澤明孝氏が語る。「特別養護老人ホームへ行くと、認知症や脳梗塞の後遺症が進んで動くこともできず、胃ろうで栄養を取りながら日常を送られている方も少なくありません。ただ、このような形で100歳を超えて生きるとは、果たして医療の正しい形なのかという疑問があります」

## 「老い」と「病」を区別する

介助を必要としたとしても、自分の口で食べるのが人間の原点です。現在、100歳を超えても元気に歩いたり、食事をしたりする人が増えていますが、みなさん、エアロバイクを使って足の筋肉を鍛えたり、食事をして自力で食事をするようと試みています」

「老い」と「病」を区別する

実際に90歳を超えるような超高齢者を何十人も診察しているという長尾クリニック院長の長尾和宏氏が語る。「90歳を過ぎたら体のどこかに異常があるのが正常です。そんな当然の衰えを『老い』と捉えられ人と『病』と捉えてしまう人がいます。誰にも訪れる『老い』を『病』ととらえることで、必要以上に病院通いをして、不要な薬を飲みすぎてし

まい、逆に健康被害を招く例も多いのです」

90歳を超えた高齢者のなかには「早く迎えが来ないものかね」と嘆く人が多い。死にたくても、身体が健康すぎて死ぬなという悩みがあるようだ。だが、そんな愚痴でも口にできるのは「健康の証」だと長尾氏は言う。「90歳を超えた人の『死にたい』という言葉は、『もっと生きたい』という気持ちの裏返しだと思

います。自分がめでたく90歳を迎えたということに関して、なんらかのメッセージを発しているわけですが。本当に寝たきりになってしまえば、意思の疎通もできなくなる」

いずれにせよ、100年生きることが珍しくない時代が到来して、健康の概念や国の福祉制度は大きく変わっていかざるをえないだろう。長生きしたからと言って総理大臣に純銀の杯をもらったり、市長から表彰されたりとちやほやされる時代は終わったのだ。

昨年夏に上梓した著書『九十歳。何がめでたい』がベストセラーになって



介護人材は外国人頼みに